

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	東日本大震災による緊急消防援助隊活動中の支援車の拡幅装置の不具合について
3. 体験した事例の中心的要素	国費により平成22年に47都道府県へ配備された支援車 I 型での東日本大震災支援活動中における拡幅装置の不具合によって発生した県隊活動への支障のおそれがあった事例について
4. 体験した事例の原因・理由	支援車 I 型のトラブル処理に対する経験・知識の不足

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	
------------------	--

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成23年3月17日 午前6時頃
2. 発生した当時の天候	雪
3. 発生した活動現場	屋外：東北地方の厳寒地域(気温は零下)
4. 体験した事例の種類	
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	その他: 拡幅装置故障で収納が間に合わず県隊合同の発時時刻を過ぎるおそれがあった。
7. 事例体験時の活動	風水害等の災害出動途上
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他: 支援車拡幅装置の収納作業中、野営現場から出場する際まで
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[] 同様の活動[]、任務[]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[] 同様の活動[]、任務[]
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[] 同様の活動[]、任務[]
○その他(当事者が4人以上の場合)	当事者人数については5名、緊急消防援助都道府県隊の支援車隊として任務につく。 緊急消防援助隊支援車隊としての活動経験はなく本事例が初の経験であった。

11. 事例発生の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1		別紙参照(ヒヤリハット事例情報及び時間経過)	
経過2			
経過3			
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？
- ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

危険情報を把握、予見できた。危険事象の対応方法を知っていた。避難退避がうまくいった。指揮者が適切に指示した。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	はい
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	はい
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	はい
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	はい

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

消防ヒヤリハット 事例情報(別紙ファイル)

今回のヒヤリハット事例は東日本大震災被災地への緊急消防援助隊都道府県隊の活動中の事例であり、支援車 I 型の拡幅装置の不良により都道府県隊の移動活動に遅延等の支障を来すおそれのある事例でした。当事例は、業者と連絡がとれたことで、事なきを得る事が出来ましたが、今回その製造業者についても、東日本大震災によって被災しており、場合によっては修理対応できない状況も考えられました。

平成22年に国費により47都道府県へ配備された支援車 I 型は、今後、未曾有のあらゆる災害に緊急消防援助隊として出場する可能性の高い車両です。東日本大震災での緊急消防援助隊支援車隊として経験した当事例は支援車 I 型の配備のある消防本部間で今後の災害に備え共有すべき情報ではないかと思われます。そこで、当事例で行った拡幅装置の応急的な操作方法について情報提供いたしますので、情報共有していただきたいと思います。

当事例での支援車 I 型の拡幅装置の応急操作状況

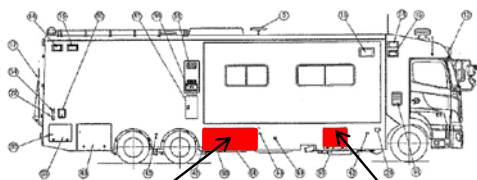
操作条件

拡幅装置不良の原因が、フロア下限と金属センサーとの間隔が4mm以上離れており、収納状態にあるものの金属センサーが反応せず赤ランプ不点灯で、拡幅操作タッチパネルモード画面左下のセンサーステータス画面のフロア下限の表示がOFFになっている場合。

フロア下限 金属センサーの位置

①

金属センサーは下記図①②の位置に配置されている。通常、収納状態でDCスイッチの電源が入っていれば赤く点灯している。②位置については(+)ネジ6本を解き、メンテナンスリッドのパネルを外すと目視できる。写真参照



①バッテリー庫 ②ガソリン携行缶収納庫



拡幅展開操作

収納状態であるが、金属センサーが点灯しておらずセンサーステータス画面の下限フロア表示がOFFの場合、拡幅操作は基本的に手動でしか行えない。

②

しかし、この金属センサー部分にコインを敷くことで金属センサー部分が点灯すれば、タッチパネルにより拡幅操作が可能となった。

当事例では、下限フロアの前後ともに表示がOFFであったため、両方の金属センサーにコインを置いて拡幅操作を実施した。その後、アナウンス音声の流れ拡幅部が完全に展開した後も音声は鳴り止まなかったが、タッチパネルボックスを閉めると音声は止まった。

拡幅収納操作

③

展開時に金属センサー部分に敷いたコインを取り除き、センサーステータス画面の下限フロア表示をOFFにして、タッチパネルにて収納操作を実施。

操作のメリット

手動操作での拡幅では、附属の手動操作ハンドルを差し込み回転させることで拡幅することができるが、30回転して、やっと6mm移動する程度であるため、本操作では時間を大幅に短縮することが出来る。

操作のデメリット

業者とのやりとりがなければ、本操作を試みることは、本装置を損傷させる可能性が高く、危険が伴う。

ヒヤリハット発生の経過

日付	時刻	活動内容
H23.3.14	11:25	緊急消防援助隊(都道府県隊)正式要請
	17:10	都道府県隊発隊式後、〇〇自動車道、〇〇PAを出発
H23.3.15	22:25	当隊は、支援車隊として派遣されており、3/15までに〇〇県〇〇PAまで到着していた。
	22:35	〇〇PAで野営決定が出された為、支援車隊にあっては野営活動のため支援車の拡幅操作を行ったが、拡幅装置が反応しない状態であった。この日にあっては拡幅しないまま野営活動を実施した。
H23.3.16	6:15	都道府県隊出発時刻の45分前、拡幅操作不良について、業者へ連絡したところ、出場途上にある〇〇県〇〇PAで修理をすることになった。
	6:30	支援車隊は支援車拡幅装置の修理の為、都道府県隊の出発時刻の30分前に県隊から外れて先行、〇〇PAへ出発。
	7:00	〇〇PAにて業者と合流し修理開始、約30分で修理完了。下限フロア部分と金属センサーの間隔距離がずれていたことにより拡幅装置が反応しなかったことが判明。修理完了後、後続してきた都道府県隊と合流し〇〇県へ向かった。
	18:35	野営拠点である〇〇県〇〇市〇〇センターに到着。野営活動のため支援車の拡幅を実施したが、拡幅装置は反応しなかった。16日拡幅装置の修理を終えた際に、業者の携帯電話の連絡先を聞いていたため、すぐに連絡をとることができ応急的な操作を電話のやりとりをしながら実施したところ拡幅部分を展開することが出来た。
H23.3.17	6:30	野営活動を終え、支援車拡幅部分の収納操作を実施したが、拡幅装置反応せず。都道府県隊出発時刻も迫っており、拡幅部分の収納には急を要した。再度、応急操作を実施したところ拡幅部分を収納することが出来た。

※ 今回のヒヤリハット事例は東日本大震災被災地への緊急消防援助隊都道府県隊の活動中の事例であり、
拡

幅装置が作動しなければ都道府県隊の移動活動に遅延等の支障を来たすおそれのある事例であった。

その後についても、拡幅装置は正常に反応することがなかった為、期間中は応急操作で拡幅を行った。

原因については、飲料水などの重量物の積載や、長距離の車両走行などが拡幅装置の金属センサーに影響を与えたのではないかと考えられる。